

青年能

第52回(振替公演)

壬喜多流

養老 杜若 乱若 老

金子 高林 狩野 昌司 龍晟 祐一

令和5年2月12日(日) 十四世喜多六平太記念能楽堂

12:00開演 (開場11:00)

主催:公益財団法人十四世六平太記念財団
協力:一般社団法人喜多流職分会
後援:品川区・品川区教育委員会



チケットご購入のご案内

一般前売券3,500円(当日券4,000円)/学生前売券2,000円(当日券2,500円)

発売日:令和4年12月18日(日)

※全席自由席

今回の催しは「令和4年9月24日青年能」の振替公演です。
当該のチケットをお持ちの方はそのままご使用できます。

■新型コロナ感染拡大防止のため、キャッシュレス決済を推奨させていただきます。

●インターネット (24時間対応、要登録・無料)

喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>

[お受け取り・お支払い]

①セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上
チケットをお受け取りください。お支払いは現金またはク
レジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも
可能です。

②喜多能楽堂事務局 窓口

クレジットカードでお支払いの上(ホームページでのweb
決済)ご予約の際に画面に表示された番号を窓口にご提
示いただき、チケットをお受け取りください。現金でのお
支払いはできません。

●電話予約

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10時~午後6時 休館日あり)

[お受け取り・お支払い]

①セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上
チケットをお受け取りください。お支払いは現金またはク
レジットカードをご利用いただけます。

②郵送

チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振込みく
ださい。入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいた
します。

③喜多能楽堂事務局 窓口

ご予約の際お伝えした番号を窓口にご提示の上チケット
をお受け取りください。お支払いは現金のみになります。

※お受け取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。
ご予約の際ご案内いたします。

※ご予約いただいたチケットのキャンセル・変更はできません。

●窓口

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10時~午後6時 休館日あり)

[お受け取り・お支払い]

お支払いは現金のみとなります。

●各同人でもチケットを受付しております。

*ご注意

※新型コロナウイルス感染の地域における動向や政府等の通達を踏まえ、
必要に応じて適宜改訂する場合がございます。

- ・公演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ・撮影及び録音等は固くお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用は
お断り致します。
- ・感染防止のため、2階ラウンジでの飲食は短時間にてお済ませくださいま
すようお願いいたします。
- ・喜多能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
- ・お席を離れる場合は貴重品お手回りにご注意ください。盗難・紛失につい
ての責任は負いかねます。
- ・係員の指示に従っていただけない際にはご退場いただく場合がございます

喜多能楽堂
東京都品川区上大崎4-6-9
TEL 03-3491-8813

※JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに
目黒駅下車、徒歩7分
※当能楽堂には駐車場施設がございませんので公共交通機関をご利用ください。

当能楽堂は、政府、公益財団法人全国公立文化施設協会などのガイドラインに基づき、感染拡大防止
のための対策ガイドラインを定めています。なお、本ガイドラインの内容は、新型コロナウイルス感染
の地域における動向や専門家の意見など踏まえ、必要に応じて適宜改訂を行うものとさせていただきます
ので、ご来場の前には当能楽堂HPにてご確認ください。お客様におかれましても、ご自身の感
染予防とともに周りのお客様にご配慮いただけますよう、何卒ご協力のほどお願い申し上げます。



●次回喜多流青年能予告

喜多能楽堂改修のため令和5年度の青年能は矢来能楽堂にて開催いたします。

令和5年5月27日(土) 午後1時始 矢来能楽堂

源氏供養 高林昌司
野 守 狩野祐一

番組

能 養老

シテ連・男 谷友矩
前シテ・老翁 金子龍晟

ワキ連・従者 矢野昌平
ワキ・勅使 福王和幸
ワキ連・従者 村瀬 慧

間・里人 河野佑紀

大鼓 佃 良太郎 太鼓 林 雄一郎
小鼓 田邊恭資 笛 小野寺竜一

後見 長島 茂
金子敬一郎

地謡 狩野祐一 粟谷浩之
佐藤寛泰 佐々木多門
塩津圭介 狩野了
佐藤 陽 大島輝久

能 咲 嘩

狂言

シテ・太郎冠者 野村拳之介

アド主人 野村万之丞
小アド・咲嘩 石井康太

休憩二十分

能 杜 若

シテ・里女 高林昌司

ワキ・旅僧 大日方 寛

大鼓 亀井洋佑 太鼓 大川典良
小鼓 飯富孔明 笛 藤田貴寛

後見 高林呻二
栗谷浩之

地謡 谷 友矩 友枝真也
佐藤寛泰 内田成信
塩津圭介 金子敬一郎
佐藤 陽 佐々木多門

休憩十分

能 猩々乱

シテ・猩々 狩野祐一

ワキ・高風 野口琢弘

大鼓 大倉慶乃助 太鼓 小寺真佐人
小鼓 曾和伊喜夫 笛 槻宅 聡

後見 中村邦生
狩野了

地謡 大島伊織 友枝真也
高林昌司 栗谷充雄
谷 友矩 大島輝久
金子龍晟

養老(ようろう)

勅都の勅使たちは、不思議な泉が湧いたという養老の滝を訪れる。そこで、老人とその息子と出会い、彼らから養老の滝の謂われを聞かされる。息子が偶然汲んだ水は、飲むだけで疲れを癒し、持って帰り年老いた親に飲ませると、身も心も若返り、長寿が保たれたという話であった。勅使たちが養老の滝の効力に感激し、このことを帝に奏聞しようとする。あたりには音楽が響き渡り、天からは花が舞い落ち、老人たちは姿を消していく。《中入》ただならぬ気配の中、山の神が姿を現し、峰の嵐や谷の水音を音楽に颯爽と舞を舞い、滝の霊水と天下泰平を祝福するのであった。

〈約八十分〉

咲嘩(さつか)

連歌の初心講(初心者の勉強会)の当番に当たった主人は、都の伯父に今回の宗匠(先生)を頼もうと太郎冠者を遣わす。しかし冠者が連れてきたのは伯父ではなく、都で有名な咲嘩という名の太盗人だった。困った主人は……

〈約二十分〉

杜若(かきつばた)

都から旅人が三河国八橋を訪れる。旅人が一面に咲く杜若に見惚れていると、里の女が現れ、『伊勢物語』にある八橋の杜若の故事を語る。「からころもきつつなれにしつましあればはるばるきぬる たびをしぞおもふ」の古歌を詠じ、在原業平が詠んだ歌だと教え、旅人を自分の庵室へと案内する。やがて女は色鮮やかな装束に冠を着して現れる。装束は在原業平と契った高子の後のもの、冠は業平が宮中で五節の舞を舞った時のもの。だと言い、自分は杜若の精だと告げる。杜若の精は『伊勢物語』の恋物語を舞い表し、夜が白むとともに姿を消した。

〈約八十分〉

猩々乱(しゅうじょうみだれ)

中国の金山の麓に高風という者がいた。彼は親孝行者であったために、夢の中で、揚子の市に出て酒を売ると富み栄えるというお告げを受け、それに従うと、彼は次第にお金持ちになつていった。ある日、童子が一人店へ訪れる。彼は酒を次々と飲んでいくものの、全く顔色を変えず酔う気配もない。不思議に思った高風が素性を尋ねると、海中に住む猩々であると言われ、名乗り姿を消す。高風は洛陽のほとりで酒壺を用意して猩々が現れるのを待っていた。やがて猩々が現れ、高風と再び会えたことを喜び、盃を傾ける。猩々は隈なく輝く月星を賛美し、芦の葉が風に吹かれて笛のように鳴り響く音色や、鼓のように響く波の音に乗って舞を舞う。そして、高風には酒が尽きることなく湧き続ける酒壺を授けていく。酔いも進み、高風が目覚ますとその酒壺だけが残っており、その後も彼の家は末永く栄えていった。

〈約四十分〉